Masao Horiba Awards
堀場雅夫賞

ご案内

2017

堀場雅夫賞募集に当たって

堀場雅夫賞は、「分析・計測」技術を対象として、2003年に設立されました。物質の組成や性質を解明すること、さまざまな現象の意味や影響を把握すること—それはまさに科学の第一歩であり、科学技術や産業発展のための基本的アプローチです。それらのさらなる探究や革新のため、分析・計測技術は必要不可欠なものです。
堀場製作所創業者・堀場雅夫の名前を冠した本賞が、分析・計測分野で活躍されている研究者の方々の功績を、分析・計測の重要性とともに広く世に知らしめてくれることを願い、皆様からの応募をお待ちしております。

株式会社 堀場製作所
代表取締役会長兼社長
堀場 厚

2017 堀場雅夫賞

Masao Horiba Awards

趣意書

堀場雅夫賞は、国内外の大学または公的な試験研究機関において、分析・計測およびその応用に関する科学技術分野で顕著な業績を挙げつつある研究者・技術者を奨励表彰するものです。

私たちが生きていくうえで、「水」が非常に大切であることはいうまでもありません。水にまつわるさまざまな現象を正確に知ることは、私たちの生活において画期的な質の向上につながる可能性があります。第14回にあたる2017堀場雅夫賞の募集テーマは、「人の生活を豊かにする水計測」です。

私たちは、飲料水・食品・農作物・医薬品だけでなく、海や川などの環境水を通して、直接的または間接的に「水」と関わっています。近年、産業発展や人口増加によって水需要が増える一方、水汚染による飲用水供給量の減少が指摘されています。持続可能な発展を維持するためには、水に関わるイノベーションを通じて、産業廃水などによる水汚染と環境破壊を軽減し、飲料水や食糧生産を安定的に確保できる社会を構築することが必要です。また、産業の発展にも水は欠かせないものです。病院や医薬品、食品の生産で用いられる純度の高い水の生産、水からの資源回収、各種素材やデバイスの生産で用いられる液体など、目的に応じた水の計測と制御は、産業の価値向上や安定的な生産のためにも重要です。さらに、産業水においては、水の循環に悪影響を与えないよう適切な処理をする義務があります。

水の持続的供給の実現には、客観的かつ定量的な水の評価がより一層求められるようになります。そのためには、どこでも誰もが簡単に水の計測を行えることが重要となります。さらに、得られた多くのデータを解析して新たな価値を生み出す情報処理技術も、同時に革新されることが必要です。近年、情報処理技術の発展により、膨大な情報が手間をかけることなくリアルタイムに得られ蓄積できるようになりました。その中から必要な情報を抽出し集約することで、新たな価値を生み出す技術も必要となります。すなわち、革新的な計測技術と解析技術を複合してゆくことが特に重要となります。

2017堀場雅夫賞では、このような背景のもと、我々の生活に密接に関係する「水」に関する分析・計測・解析技術について、独創的な研究開発に意欲的に取り組んでいる国内外の研究者・技術者の応募を歓迎します。

2017堀場雅夫賞実行委員長
株式会社 堀場製作所
専務取締役 開発本部長
足立正之

応募要領

● 趣旨

国内外の大学または公的な試験研究機関において、分析・計測およびその応用に関する科学技術分野で顕著な業績を挙げつつある研究者・技術者を奨励表彰するものです。独創的な研究開発に意欲的に取り組んでいる国内外の研究者・技術者の応募を歓迎します。

● 対象技術分野

下記の視点で人の生活水準の向上に寄与する水計測・解析技術を募集します。

1）その場計測・分析に関連する技術（例えば、対象箇所に設置または装着することでリアルタイムの計測が実現できるもの）
2）液体計測と情報処理技術（例えば、ICT、IoT、AI）を組み合わせた技術
3）自動計測の高度化に寄与する技術（例えば、メンテナンスフリー、ノンサンプリング技術など）

なお本募集における水は、環境水（湖沼水、河川水、海水、地下水）や産業プロセスにおける水（上水、下水、海水淡水化などの水処理プロセス）のほか、水を主成分とする各種液体（飲料水、養液、培養液、洗浄液など）も含みます。ただし体液の測定や臨床検査に関する技術は除きます。

● 応募者資格

大学、公的試験研究機関に所属し、上記分野の研究・開発に従事し、以下のいずれかに該当する研究者・技術者。

・上記対象分野において、学術上、技術上の優れた発見、発明を成すことが期待されること
・上記対象分野において、学術上、技術上の重要な課題の解決が期待できること

● 表彰内容

2017年10月17日（火）に京都大学芝蘭会館において挙行する授賞式にて、本賞の授与ならびに副賞の贈呈を執り行います。副賞としては、初年度に1件当たり50万円、さらに受賞翌年と翌々年にそれぞれ同額を授与します。なお、本賞および副賞の受賞は、授賞式に出席し、応募研究を公表できること、かつ上記の応募資格を有していることを条件とします。

● 応募

下記の①応募用紙（原紙）、②推薦書（原紙）、③関連論文（用紙）を正副各1部（副はコピー可）、およびこれら（①、②、③）をPDFファイル形式にて保存した電子記録媒体（CD-R、DVD等）、それぞれを堀場雅夫賞事務局に提出して下さい。なお、提出書類等（電子記録媒体を含む）は返却いたしません。

① 応募用紙：本賞ホームページ http://www.mh-award.org/ よりダウンロードして下さい。所定事項を記入のうえ（英語記入ページも必須）、正副各1部（副はコピー可）およびPDFファイルを提出して下さい。
② 推 薦 書：本賞ホームページ http://www.mh-award.org/ よりダウンロードして下さい。推薦人により、推薦理由が記述された（英語記入ページも必須）、正副各1部（副はコピー可）およびPDFファイルを提出して下さい。なお本推薦書の提出をもって、所属機関による応募の承認とみなします。推薦人は応募者の上長とします。
③ 関連論文：当該研究開発に関連する論文（可能な限り英文のもの）最大3報のコピーおよびPDFファイルにて提出して下さい。

● 応募期間

2017年3月1日（水）～5月19日（金）（事務局必着）

● 選考方法

審査委員会にて、応募書類を基に、応募者の実績のみならず将来性と応募研究における応募者の果たしている役割重視した審議の上、受賞者を決定します。

2017堀場雅夫賞 審査委員会（敬称略、順不同）

審査委員長	堀場 厚（株式会社堀場製作所 代表取締役会長兼社長）
副審査委員長	滝沢 智（東京大学大学院 工学系研究科 教授）
海外審査委員	Shane A. Snyder（Professor, The University of Arizona）
審査委員	今井 章雄（国立環境研究所 地域環境研究センター センター長）
	鳥村 政基（産業技術総合研究所 イノベーション推進本部 総括企画主幹）
	由井 宏治（東京理科大学理学部 教授）
社内審査委員	高木 想（株式会社堀場アドバンスドテクノ 開発本部 要素開発部 副部長）
	川口 佳彦（株式会社堀場アドバンスドテクノ 開発本部 要素開発部 Sensingチームリーダー）

● 選考結果の通知

審査結果は、応募者に2017年7月末までにお知らせします。

● 授賞式および受賞記念セミナー

授賞式および受賞記念セミナーを、2017年10月17日（火）に京都大学芝蘭会館で実施します。あわせて受賞記念レセプションも開催します。

● 受賞内容の公開

受賞研究の内容は、本賞ホームページおよび弊社の技術情報誌 *Readout*（HORIBA Technical Reports）に掲載します。

● 応募用紙の送付先

堀場雅夫賞事務局

〒601-8510 京都市南区吉祥院宮の東町2番地
株式会社堀場製作所内 堀場雅夫賞事務局
TEL:075-325-5110　FAX:075-325-5192
E-mail：info@mh-award.org　URL：http://www.mh-award.org/